

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立銀座中学校

学校の教育目標

きたえる学校 ○自ら考え 進んで学ぶ人になろう
 ○情操を高め 心豊かな人になろう
 ○心身をきたえ たくましい人になろう

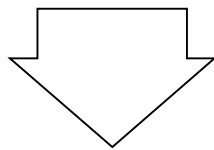
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等を涵養し、「確かな学力」の向上を図る。

令和2年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>▲サポートテストにおいて「漢字を正しく書けている」が区の平均より5ポイント低い。</p> <p>▲問いに対して、自分の中で理解、整理し、的確に答える力が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習不足により、漢字を間違えて覚えている。 ・文章や質問を的確に読み取る力がついていない。
数学	<p>▲問題文などを読み取る力が不足し、思い込みで問題を解くことがある。</p> <p>▲学習力サポートテストから分数や小数の乗除混合や四則の計算を苦手としている生徒が2割ほどいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題に対して苦手意識がある生徒が多い。 ・絶対的な練習量が足りず、そのため間違いやすい部分に対する注意が不足している。
社会	<p>▲文章を正確に読み取り、既習知識と結び付ける力に課題がある。</p> <p>▲学習力サポートテストの結果から知識・理解の問題に比べ、図やグラフを根拠にして、自分の考えを述べることを苦手としている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を増やすのみの学習経験を積んできている。 ・グラフと実際のイメージが合致しておらず読み取る力が不足している。
理科	<p>▲学習力サポートテストから知識・理解は区の平均より7ポイント高いが、思考・判断・表現になると平均と同じである。</p> <p>▲理科の問題を解くにあたり、読解力が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験が不足しており自分たちで考える力が不足している。 ・説明・要約など言語活動の経験が不足している。
英語	<p>▲学習力サポートテストから基礎的・基本的な知識の定着が区の平均より2ポイントほど低い。</p> <p>▲時間をかけ、教員等の援助を受ければ、英語で用いた発語や記述ができるが、自己の意見や考えを、英語を用いて表現することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に対して苦手意識をもっている生徒が多く反復学習が定着していない。 ・英語を用いた表現活動の経験が不十分である。
保健体育	<p>▲体力テストの結果から走・跳・投の基礎的運動能力の不足の生徒がみられる。</p> <p>▲仲間とコミュニケーションをとりながら、積極的に運動に取り組むことが苦手な生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種目での運動経験が不足している。 ・お互いに声を掛け合って活動する機会が少ない。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	朝読書を実施する。また、授業内で実施する小テスト・単元テストや ICT 機器を活用したドリルソフトを通じて、基礎的・基本的な知識の習得を図る。
②授業改善	ICT機器を活用し、視覚教材の開発や実体験をふまえた活動を行う。主体的、対話的で深い学びを実現するため、生徒が考えた意見の発表の場や作品を相互に見せ合い考えを深める場の設定を行う。
③教員の指導力	授業規律を徹底する。ICT機器を用いた活用場面・形態の工夫、指導と評価の一体化について全校で共通理解を図りペアでの授業参観を行い授業改善を行っていく。また、OJT研修を管理職、主幹教諭、指導教諭、主任教諭を講師に学期に3回行っていく。
④家庭との連携	各教科において、定期的な学習課題を生徒に課す。HPの活用など家庭との連絡を密にし、生徒の学習状況や課題の提出状況を伝えるなどして、8割以上の提出率を達成する。SNSの利用方法に関して連携をとる。
⑤体力向上	「走る・跳ぶ・投げる」という基礎的な運動能力の向上のために ICT 機器を活用し、技能の向上を目指していく。



【目標達成のための具体的な取組内容】

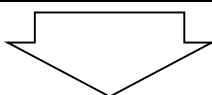
①学力基盤	
取組Ⅰ	年間を通して、読書に取り組みさせることで、読書に親しみ文章を読み取る力を伸ばす。また、各教科から出される課題と関連する学校図書館の蔵書との関わりを示し、学校図書館の利用率を高める。
取組Ⅱ	基礎的・基本的な内容な内容の理解と定着を図るため、5教科において、単元ごとに小テスト等を実施する。ホームページや Classroom で学期に1回各教科からの授業内容、定期テストのアドバイスを掲載し家庭でも復習できるようにする。
取組Ⅲ	隔週で行う朝学習で ICT 機器を活用したドリルソフトへの取組を行う。5教科を中心とした学習を行い、基礎・基本の定着を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	令和元年度まで2年間研究した成果を生かし、各教科の年間指導計画に具体的なICTの活用方法を記入する。またICT機器を活用した研究授業を1つ以上計画する。
取組Ⅱ	校内研修会を通じて、教員が互いの授業を参観し、意見交流する場面を設定する。その成果や課題を、日々の授業改善に生かす。
取組Ⅲ	生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、校内研修会を通して、教員の指導内容と評価場面や評価方法について研修を行う。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	生徒達に学習予定の提示、調べ学習、意見交流のきっかけ等、ICT機器を活用して授業を行っていく。また、教員同士の授業観察を行い、互いの授業内容や形態などディスカッションをしながら授業を工夫していく。
取組Ⅱ	授業規律に関わる事項を全校で共通理解する。例えば、落ち着いた授業環境をつくるため、授業時の挨拶や呼名、指示・説明の方法、学習目標の提示の場面設定、授業の受け方指導などを行う。
取組Ⅲ	日頃から、教科の枠を超えて、教員間での教え合い、計画的なOJT研修を行い中堅教員から若手教員への指導・援助等、組織的・継続的な教員の育成を行い、指導力を高める。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	学校便り・学年便り・SNS等で、学校の取組、生徒の活動、PTA活動等を積極的に発信する。また、ホームページやClassroomに学期に1回各教科からの授業内容、定期テストに向けたアドバイスを掲載し家庭で復習できるようにする。
取組Ⅱ	担任から、生徒の日常的な生活の様子、学習状況や課題の提出状況等を伝えるなど家庭との連絡を多く取り、家庭と連携した指導を行う。
取組Ⅲ	SNS利用における家庭でのルール作り・マナー指導のために、3年間を見通した計画的な携帯・スマートフォンに関わる安全指導を行う。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	「走る・跳ぶ・投げる」基礎的な運動能力の向上のために、体育の授業を中心にICT機器を活用しながら技術の向上に推進していく。
取組Ⅱ	授業および外部講師による講演会等により、体力の向上とともに自己の心と体の健康について理解を深めるための学習活動を行う。
取組Ⅲ	コーディネーショントレーニングや体幹トレーニングを取り入れた授業を、意図的・計画的に行い運動能力の基礎的な力を高める。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	今年度から、朝学習の時間に読書の時間を取り入れたことで、文章を読み取る力がついてきている。5教科では単元ごとのテストや小テストを行うことや、定期的にドリルソフトを行うことで基礎基本の定着を図ることができた。また、毎日の生活記録の中で日記を書くことで表現の力がついてきている。	全体的には学力が伸びてきているが、学力の向上につながっていない生徒がいる。定期テスト前の補習講座や、夏休み期間中の補習講座を行っていく。朝学習の時間に行っている、読書とドリルソフトは継続的に来年度も実施していく。
②授業改善	ICT 機器を使用した授業が増え、生徒達の学習意欲につながっている。また、学期ごとに教員同士で授業を参観し合い授業改善を行った。評価方法においても4月に校内の3名の指導教諭が講師となり研修会を行った。	新しい教員が入ってきたときの情報共有を確実に行う必要がある。2年間 ICT 機器を活用したの研究を行った成果を継続し、来年も引き続き ICT 機器を活用した授業を行っていく。4月当初に評価方法についても研修会を行い学校全体で意思統一をしていく。
③教員の指導力	教員同士の授業参観を学期に1回行い指導力向上に努めることができた。また、OJT 研修を若手教諭は月に1回～2回、中堅教諭、主任、主幹教諭は学期に1回に分け研修を行うことができた。研修の中では評価方法、授業規律、生活指導、進路指導、特別支援教育などの理解を深めた。	若手教諭が多いので情報共有を常に行っていく必要がある。主任、主幹教諭が指導する OJT 研修を来年度も継続して行っていく。また、中堅教諭の研修の回数を学期の始めと終わりに実施し、共通理解を図っていく。
④家庭との連携	Classroom を活用し、学校便りや学年便りの配信を定期的に行うことができた。また、定期テストの前など各教科の学習内容や学習ポイントなどを発信することができた。面談を通して全授業の提出物等の状況を家庭に伝えることができた。	SNS やタブレット利用における家庭でのルール作りは生活委員会を中心に行ってきたが、家庭への浸透はもう1歩足りなかった。Classroom を欠席生徒への連絡等にも積極的に活用していく。ICT 委員会を立ち上げルール作りなど組織的に計画し、家庭に浸透するよう取り組んでいく。
⑤体力向上	ICT 機器を活用し自分の動きを撮影し確認しながら技術の向上に取り組んだ。また、毎回の授業の中で筋力トレーニングを取り入れ運動の基本的な能力の向上につなげた。3学期に長距離走を実施し、体力向上に取り組んだ。	コロナ禍のため外部講師の講演を行うことができなかった。来年度は体の健康について理解を深めるために学校保健委員会を中心に大塚製菓を講師に迎え講演会を開催していく。ICT 機器を活用した技術の向上は来年度も行っていく。